

医心 伝心

2013年夏 参議院選挙を終えて

県医常任理事 南里 泰弘

2013年の参議院選挙は自民党・公明党の圧勝に終わり、長年続いてきたねじれ国会がようやく解消された。自民党においては全国区から6人の医療系議員が出馬し、日本医師会は団結力を示す切り札として日本医師会副会長である羽生田俊氏を応援してきた。羽生田俊氏は、見事当選されたが、残念なことに医療系6人の立候補者の中ではトップ当選ではなかった。今回の選挙は、日本医師会が医療における専門的集団であり、かつ政策与党に対して一致団結して提言を行える団体で、国民的信頼を得ている集団であることをアピールする大事な参議院選挙であった。医師全体の団結力が不足している中で、行政に対して医療全般について提言する集団は日本医師会であることを医師一人一人が認識し、医療政策にもっと関心を持つべきだと痛感させられた。勤務医のなかには「医師会は開業している先生のもので勤務医は関係ない、あるいは蚊帳の外」という誤った考えがまだあり、勤務医の医師会参入が乏しいのも現実である。勤務医こそが地域の救急医療の多くを担い、専門的医療を提供しているのも事実であるが、開かれた医師会にするためには勤務医の参加こそが重要である。地域医療を改善していくためにも、また勤務医の就労環境整備・改善を行うためにも、もっと多くの勤務医が医師会活動に参加し医療全般について考える必要がある。富山県医師会では会員の約半数が勤務医であるが、県内全体の勤務医数から見ると半数にも満たない。勤務医の医師会参入を呼びかけるが、「参加メリットが見えない、医

政は関係ない」との声が聞かれる。メリットの有無だけで判断するべきではなく、地域医療を担う一医師として、医療現場の最前線の意見代弁者として、ぜひとも医師会に参加して、少しでも医療環境を改善し「だれでもどこでも適切な医療が受けられる社会」を継続し、より良くしていきたいものである。

大阪府医師会は勤務医部会設立40周年の記念式典・講演会を7月13日に開催された。シンポジウムでは病診連携に焦点を当て救急における病診連携、かかりつけ医との関わり、周産期医療における病診連携などこれまでの勤務医と開業医との関係を紹介された。この関わりを通して府医師会への参加を呼び込み勤務医の就労環境・女性医師問題等多くの勤務医の問題を、先陣を切って良き方向に修正されてきた。富山県医師会勤務医部会も平成19年7月の設立でまだまだ未熟ではあるが、勤務医の就労環境改善・医学部の4割近くが女性であることを踏まえ女性医師の働きやすい環境整備・就労時間等改善に取り組んでいる。勤務医の方にも県医師会を知っていただくことが大事であり、その一環として9月14日(土)には勤務医部会講演会を大阪府医師会勤務医部会副会長である上田真喜子先生をお招きして開催予定である。多くの勤務医の先生方の参加をお願いし、われわれ勤務医が医師会活動に積極的に参加し、より良き医療のために貢献することが医師としてのもう一つの役目と痛感するこの頃である。